

未来医療研究人材養成拠点形成事業「なごやかモデル」の名古屋学院大学のスタッフと情報交換を行いました

平成 26 年 3 月 19 日（水）午後 1 時から、新潟大学医歯学総合病院外来棟 3 階の会議室において、名古屋学院大学経済学部的小林甲一先生、村上寿来先生、山下匡将先生をお招きし、同じ未来医療研究人材養成拠点形成事業「テーマ B：リサーチマインドをもった総合診療医の養成」のプログラムのひとつである「なごやかモデル」と、私たち「オール新潟による『次世代医療人』の養成」の、情報交換を行いました。

「なごやかモデル」は、住み慣れた土地で、豊かに老いを迎え、その人らしく暮らすことのできる社会作り（エイジング・インプレイス、AIP）、その質の高いAIPを支える医療人材を育成することを目的としています。

今後予想される病院から在宅への医療ニーズの急速なシフトを、単なる高齢化対策ではなく、未来医療への新しいトレンドとして位置づけ、AIPの実現と発展、質の保証を担う総合診療医、薬剤師、看護師、理学療法士、ICT医工学者、そしてさらに広い職種を含む多職種連携チームを育てることが目的です。3人の先生方は、ご専門の医療福祉連携・社会福祉の立場から、「なごやかモデル」のプログラムコーディネートをされています。

情報交換では、それぞれのプログラムの発足から現在までの進捗状況について説明しました。当方では今までにスタートアップシンポジウムの開催、医学教育実習で魚沼市内2地区でのアンケート調査実施、トータルヘルスケアワークショップ・フィールドワークの開催などを説明しました。なごやかモデルでは、昨年12月7日(土)に

キックオフシンポジウムを行ったこと、プログラム全体の概要、その中で名古屋学院大学の役割についてなどをご説明いただきました。その後は福祉・ケアの中ではリーダーシップはだれがとるか、ソーシャルキャピタルの効用と限界について等、ご専門の立場から、私たちにとっては新鮮で貴重なご意見をいただきました。医療職でない立場からの多職種連携、医療・介護へのご意見・ご提言は私たちにとっても非常に有用で、今後も継続的にご意見をいただければと考えています。

